

**製品名: AIF-M1 ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab06701**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:5000-1:10000
分子量	67kDa

**抗原情報**

遺伝子名	AIFM1
別名	AIFM1; AIF; PDCD8; Apoptosis-inducing factor 1; mitochondrial; Programmed cell death protein 8
遺伝子 ID	9131.0
SwissProt ID	O95831
免疫原	抗血清はヒト AIFM1 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 51-100

**背景**

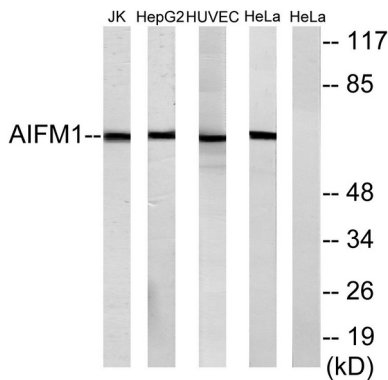
この遺伝子は、アポトーシス細胞の核分解に必須のフラビンタンパク質をコードしており、健全細胞のミトコンドリア膜間腔に存在

します。アポトーシス誘導は、このタンパク質の核への移行を招き、染色体の凝縮と断片化に影響を与えます。さらに、この遺伝子産物はミトコンドリアからアポトーシス誘導タンパク質であるシトクロム c とカスパーゼ 9 の放出を誘導します。この遺伝子の変異は、重篤なミトコンドリア脳筋症である複合型酸化リン酸化欠損症 6 (COXPD6) や、神経障害、軸索障害、運動感覚障害、難聴、精神遅滞を伴う疾患である X連鎖劣性シャルコー・マリー・トゥース病 4 (CMTX-4) としても知られるカウチョック症候群を引き起こします。選択的スプライシングにより、複数の転写産物バリエーションが生じます。染色体触媒活性に関する関連疑似遺伝子が同定されている：2 グルタチオン + タンパク質ジスルフィド = グルタチオンジスルフィド + タンパク質ジチオール。補因子：FAD。機能：顕著なタンパク質チオールジスルフィド酸化酵素活性を有する。機能：カスパーゼ非依存性ミトコンドリアにおけるアポトーシス細胞死のエフェクターとして作用すると考えられる酸化還元酵素。ミトコンドリア外 AIF は、核クロマチン凝縮と大規模な DNA 断片化を誘導する (in vitro)。DNA に配列非依存的に結合。類似性：FAD 依存性酸化還元酵素ファミリーに属する。類似性：1 つのチオレドキシンドメインを含む。細胞内局在：アポトーシス誘導時に核へ移行する。サブユニット：XIAP と相互作用する。組織特異性：広く発現している。

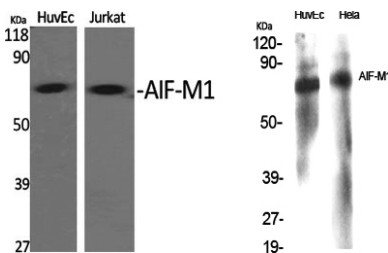
## 研究分野

アポトーシス阻害;ミトコンドリアアポトーシス;アポトーシスの概要;

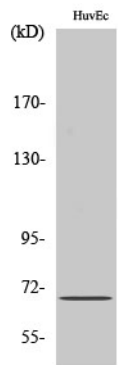
## 画像データ



AIFM1 抗体を用いた HUVEC 細胞、HepG2 細胞、HeLa 細胞、および Jurkat 細胞のライゼートのウェスタンブロット解析。右レーンには合成ペプチドでブロッキングされている。



AIF-M1 ポリクローナル抗体を 1: 1000 に希釈して様々な細胞をウェスタンブロット分析した。



AIF-M1 ポリクローナル抗体 (1: 1000 希釈) を用いた Jurkat 細胞のウェスタンブロット解析